

評価項目	学習指導
------	------

重点目標	主体的に学び、高め合う子どもの育成	
現 状	これまで、授業でICTの活用や「つながる場」の設定で、授業改善の共通実践に取り組んできた。県学習状況調査等では、5年生と6年生が県平均を大きく上回ったが、4年生は国語で県平均より大きく落ち込んでいる。	P
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を効果的に活用するとともに、学習指導要領各教科の目標にある「見方・考え方」を働かせることを意識して授業改善に取り組む。 ○県学習状況調査等で、全学年が県平均を上回ることを目指す。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの型を活用する。（「八森っ子の学び合い」「秋田の探究型授業」） ○ねらいを明確にした効果的な交流の場を設定する。 ○発問の吟味や「ゆさぶり」など思考を広げたり深めたりするしかけをする。 ○振り返りを充実させる。（振り返りの視点、振り返りの価値付け） 	
具体的な取組状況 (中間報告)	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修会において、全学年で学びの型「八森っ子の学び合い」を活用することを確認したり、本校の研究のキーワードである「つながる力」を明確に定義付けし、共通理解を図ったりした上で、「秋田の探究型授業」を意識した授業改善に努めている。 ○年間通して、1人1回、研究授業や『見合う授業』として授業を提示。授業構想や板書計画、コーディネートや授業を価値付ける振り返りの在り方等、多くの学びを共有できた。 ○児童が自分の考えをまとめたり、他者や全体で交流したりする場面等で、電子黒板やタブレットPCなどのICT機器を積極的に活用している。思考を深める場面での活用、ノートとの併用など、よりよい使用方法を模索している。 →県の「ICTを活用した授業力向上事業」のモデル校として、県義務教育課指導主事が20回程度訪問し、ICTの効果的な活用の仕方や、子ども主体の授業づくり、教師のコーディネート力等についてご指導いただいている。 ○今年度の授業研究会では、話合いで「授業改善のために取り組む共通実践事項」を決めたり、前の授業研究会で確認した「授業改善のために取り組む共通実践事項」の取組の自己評価を行ったりして、より実効性のある話合いの場を設定することができている。 ○12月に実施される県学習状況調査で成果が見えるように、学び直しの時間を設定し、管理職も含めた全教員で児童に関わった。 	D
自己評価	<p>(評価)</p> <p>A</p> <p>県学習状況調査では、昨年度、県平均を下回っていた4年生（現5年生）の国語と算数が県平均を上回り、4・5・6年全学年の全教科において県平均を大きく上回った。</p> <p>今年度、本校の研究のキーワードである「つながる力」を高めるために、全教員で共通実践してきた取組の成果であると考え。また、県のICT事業で、県義務教育課指導主事から伴走支援をしていただきながら、全職員が高い意識で授業に臨めたことも大きく影響している。</p> <p>今年度の研究の成果をもとに、今後も継続して取り組んでいくことが大切であると考え。また、教員の授業力向上のための研修も充実させていきたい。</p>	C
	<p>↑ 評価基準</p> <p>↓</p> <p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者評価と意見	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○若い教員が多くなる中で、授業力はもちろんであるが、子どもたちに人生経験を語れるような教師の育成も図ってほしい。 ○職員全体で若い教員を育てる体制を作っていくことが大切である。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な研修で高まった教員の授業改善の意識の継続を図るため、全体研修での学びを日々の授業実践に生かす校内研修の仕組みを構築していく。 ○教員の資質能力の向上を図るため、計画的なOJTを推進し、中堅教員と若手教員の育成を図り、学校全体の推進力を上げていく。 	A

重点目標	基本的な生活習慣を身に付け、好ましい人間関係づくりができる子どもの育成	P
現 状	素直な児童が多く、全員落ち着いた学校生活を送っている。学校では元気の良いあいさつができるが、地域ではあまりできない児童がいる。あたたかい言葉遣いや思いやりのある行動をするなどの指導は継続してきている。	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつや「あったか言葉の木」を活用した活動などを充実させ、心の健康につなげていく。 ○県の調査等で、関連項目の回答の肯定の割合が県平均を上回る。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会や縦割り班活動等を通して啓蒙活動を行う。 ○授業、朝・帰りの会、班活動等において、発言やがんばり、よさを多面的に認める場を設定する。 ○学校生活の様々な場面において目標を設定させるとともに、ゴールまでの道筋を明確にさせて取り組ませる。また、「見守る」姿勢を大切に、子どもたちが自分で解決していこうとする場面を意図的に設定する。 ○子どもを語る会や生活アンケート、個人面談等により、気になる児童の全職員による共通理解を図り、支援体制を整える。 	
具体的な取組状況 (中間報告)	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生のリーダーシップの下、児童会活動や縦割り班の活動を活発化させている。縦割り活動で、班内で役割分担を明確にし、お互いの頑張りを認め合う場を意図的に設定したり、高学年児童が低学年児童に優しく掃除の仕方を教えたりと思いやりのある行動の体現や自己有用感の醸成を図っている。 ○授業、朝・帰りの会、班活動等において、発言やがんばり、よさを多面的に認める場を設定し、「居場所づくり」「絆づくり」に努めている。 ○道徳的価値「思いやり」を、道徳教育の重点項目に設定するとともに、全校で「あったか言葉の木」運動にも取り組んでいる。 ○情報モラルパンフレット配布による保護者への啓発活動を行った。今後は臨床心理士を講師に招き、児童・保護者対象とした「やさしい言葉のかけかた」について講話していただく予定である。 ○水産教室や男鹿水族館見学、花壇作業等、体験を生かした「いのちの学習」や助産師さんによる「命の授業」などを実施し、「いのち」について考える機会を設けている。 	D
自己評価	<p>(評価)</p> <p>B 保護者アンケート(12月実施)で、教師がいない場での言葉遣いの悪さを指摘する意見が複数見られた。相手の立場や気持ちに寄り添った言葉掛けが、よりよい人間関係を構築する基盤であることを、今後も折に触れ話し、意識させていきたい。</p> <p>また、元気なあいさつについては、保護者アンケートの結果は、高評価と低評価の二極化であった。今後も家庭での協力を仰ぐとともに、我々教師が、子どもたちが真似したくなるあいさつのモデルとなるよう実践していきたい。</p> <p>県学習状況調査の質問紙「学校が楽しい」「自分にはよいところがあると思う」「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は、4・5・6年全学年で県平均を上回っている。</p>	C
↑ 評価基準 ↓		A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない
学校関係者評価と意見	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの思いやりの心を育むために、児童の発達段階に即した具体的な指導をしている。 ○先生と子どものよりよい信頼関係づくりが、生徒指導の要であるので、建前ではなく本音で子どもと話せる関係を築いてほしい。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体となる「絆づくり」と教師主導で行う「居場所づくり」として、どの子にも活躍できる場とお互いのよさを認め合う場の設定や、失敗や間違いを成長の機会と捉えた見守りと支援を行う。 ○教師が率先してあいさつを行うなど、教師が子どもの学びのロールモデルとなるよう心掛ける。 	A

重点目標	地域に笑顔と元気を届け、地域に感謝し、貢献する子どもの育成	P
現 状	町CSを母体に、「JA秋田やまもと」や「読み聞かせグループかもめ」など、様々な団体と連携し多様な教育活動を展開している。昨年度も、八峰白神ジオパークを中心としたふるさと教育を実施することができた。児童が、地域に笑顔と元気を届け、地域に貢献する活動に進んで取り組むためにも、まずは地域での積極的なあいさつを心掛けることを呼び掛けている。	
具体的な目標	○地域学習や奉仕活動等を通して、地域の方々や専門の方々と触れ合うことで、ふるさとのよさや課題に気付き地域に貢献しようとする意識を高める。 ○県の調査等で、関連項目の回答の肯定の割合が県平均を上回る。	
目標達成のための方策	○八峰白神ジオパークを中心とした地域学習の推進を図る。 ○小・中連携事業や地区児童会で、地域に貢献する活動を実施する。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で広く八森地区に出掛け、楽しく地域のよさを学び、体験する活動を行う。	
具体的な取組状況 (中間報告)	○各学年で計画的に八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習を進めている。今年度は8月30日に「日本ジオパーク全国大会」に6年生が参加し、本校のジオパーク学習の取組を紹介することができた。 ○「親子でジオサイト」を実施し、保護者にも八峰白神ジオサイトについて理解してもらう機会を設けている。参加した保護者にも概ね好評で、児童が学習している「ふるさと学習」の内容を理解することに役立っている。 ○中学校と連携し、地区児童会で地区のクリーンアップ等、奉仕活動を行った。地域の方々が参加してくださった地区もあり、交流の機会になった。 ○生活科、社会科、総合的な学習の時間で岩館・観海・八森地区に出掛け、楽しく地域のよさを学び、体験する活動を行っている。今年度は峰浜地区の稲刈り体験と八森地区の漁協見学を本校5年生と峰浜小5年生で、合同で実施した。 ○「読み聞かせグループかもめ」による読み聞かせやJA婦人部によるサツマイモ掘り、クラブ活動の「和太鼓クラブ」等、地域の多様な人材を活用した学びを行っている。	D
自己評価	(評価) 今年度も、八峰白神ジオパークを中心としたふるさと学習に取り組み、ふるさとの理解を深め、活動を通して気付いたふるさとのよさを様々な形で表現することができた。 特に、本校のふるさと学習での学びを全国に発信できたことは大変意義のあることだった。今後も得た学びを発信していく機会を探っていきたい。 A 保護者アンケート(12月実施)でも、地域の自然や人と繋がる体験を今後も継続してほしいという内容が多数見られた。 児童アンケート(12月実施)でも、児童は地域との触れ合いについて、肯定的に自己評価をしている。 県学習状況調査の質問紙「地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う」の項目においても、全ての学年で肯定的回答が100%であり、様々な活動を通して地域への貢献意識も高まっている。	C
<p style="text-align: center;">↑ 評価基準 ↓</p> <p style="text-align: center;">A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	A ○今年度は地域の学びを発信する場があり、とても貴重な体験となったのではないかと。 ○峰浜小に比べると、八森小は地域と関わる活動が比較的少ないように思われる。 ○アンケート結果から地域に貢献したいという肯定的な回答が多い。地域から学ぶだけでなく、地域に元気を届ける活動があればよい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○次年度は児童会による地域貢献活動を創出して、地域に積極的に関わらせていきたい。 ○ふるさと学習での充実した学びを発信していく活動を通して、子どもたちの表現する力を育成していきたい。	A